



TITLE:

腎嚢胞を伴った右胸部腎の1例

AUTHOR(S):

志村, 哲; 吉田, 一成; 門脇, 和臣; 石橋, 晃; 小林, 健一;
福田, 潔

CITATION:

志村, 哲 ...[et al]. 腎嚢胞を伴った右胸部腎の1例. 泌尿器科紀要 1990, 36(11): 1321-1324

ISSUE DATE:

1990-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117039>

RIGHT:

腎嚢胞を伴った右胸部腎の1例

北里研究所病院泌尿器科 (部長: 門脇和臣)

志村 哲, 吉田 一成, 門脇 和臣, 石橋 晃

牛久愛和総合病院泌尿器科

小 林 健 一

牛久愛和総合病院内科

福 田 潔

RIGHT THORACIC KIDNEY WITH SIMPLE RENAL CYST:
REPORT OF A CASESatoru Shimura, Kazunari Yoshida, Kazuomi Kadowaki
and Akira Ishibashi*From the Department of Urology, the Kitasato Institute Hospital*

Kenichi Kobayashi

From the Department of Urology, Ushiku Aiwa Hospital

Kiyoshi Fukuda

From the Department of Internal Medicine, Ushiku Aiwa Hospital

A case of right thoracic kidney with simple renal cyst is reported. A 67-year-old man was pointed out to have an abnormal shadow in the right lower lung field of chest X-ray film. He was asymptomatic. Laboratory test was normal. Computed tomography and excretory urography confirmed the right thoracic kidney with a simple cyst. Adrenal scintigraphy revealed a high ectopic adrenal gland with right thoracic kidney. Since he was asymptomatic, treatment was not required. High ectopic kidney is extremely rare and 74 cases have been reported in the domestic literature in Japan. Thoracic kidney should be considered as one of differential diagnoses of abnormal mediastinal shadow.

(Acta Urol. Jpn. 36: 1321-1324, 1990)

Key words: Thoracic kidney, Renal cyst

緒 言

腎の単純性位置異常には、骨盤腎、腸骨腎、腹部腎および胸部腎の4種類があるが、胸部腎はこれら異所性腎の5%以下と非常に稀である。われわれは健診にて胸部X線異常陰影を指摘され発見された腎嚢胞を伴った右胸部腎を経験したので報告する。

症 例

患者: 67歳, 男性

主訴: 胸部X線異常陰影

現病歴: 1989年5月, 健診にて胸部X線異常陰影を指摘され, 内科にて胸部CTを施行された。CT上右胸部に腎を認め当科へ依頼された。自覚症状はなかった。

既往歴・家族歴: 外傷等特記すべきことなし

理学的所見: 異常なし

血液・尿検査: 異常なし

X線学的検査: 胸部単純X線; 正面像では, 右下肺野の内側に半橢円形の腫瘤状陰影を認める。陰影の上縁は第10肋骨に達し, 下方は横隔膜と分離されており心陰影とシルエットサイン陰性である。右側面像では, 心陰影の背面にやや前傾した腫瘤状陰影を認め横隔膜とは分離されている (Fig 1)。

CT; 第10胸椎上縁レベルより胸部X線の腫瘤状陰影に一致した腫瘤を認める。その腫瘤は下方へ続き第10胸椎下縁レベルでは腎陰影の所見を示す。また右腎周囲には被薄した横隔膜と思われる陰影を認める。腎上部には内部は low density で均一な約3cm大の単純性の腎嚢胞が認められる。左腎は第12胸椎より第

2 腰椎のレベルに認め異常所見は認めない (Fig' 2).
排泄性尿路造影；両腎とも造影剤の排泄は良好であ



Fig. 1. Right lower lung field abnormal shadow in chest X-ray (postero-anterior and lateral view)

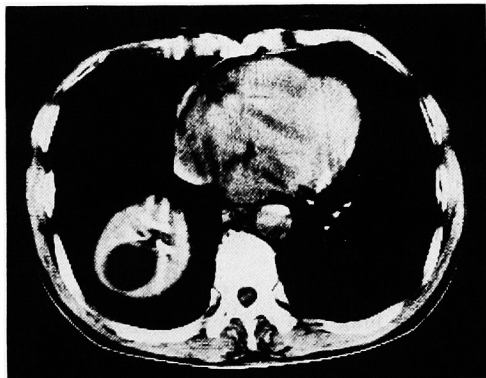


Fig. 2. Computed tomography revealed right thoracic kidney with renal cyst. The right kidney is surrounded with diaphragm.



Fig. 3. Excretory urography reveals right thoracic kidney and elongated ureter. Left kidney is in normal position. No urinary stasis in either kidney.

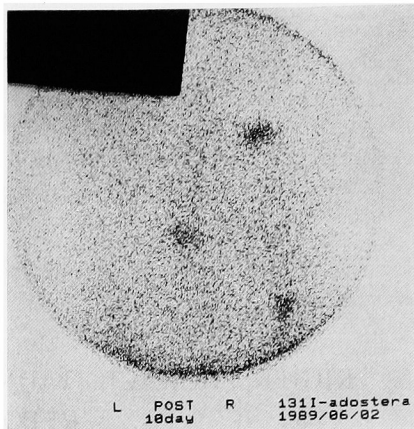


Fig 4. Adrenal scintigraphy shows the right adrenal gland in higher position with thoracic kidney. Left adrenal is in normal position. Right lower area is in intestine.

る。右腎は上方へ偏位しており斜位像では前傾を認める。腎の長軸は上方から内下方へ向けて傾斜してそれに伴い尿管が進展している。腎嚢胞による腎盂・腎杯の圧排は明らかではない。左腎に異常所見は認めない (Fig 3).

副腎シンチ；右副腎が腎とともに上昇している所見を認める。左副腎は左腎とともに正常の位置に存在する (Fig 4).

考 察

腎の位置異常のうち胸部腎は非常に稀なものである。

胸部腎の成因には先天性と後天性があり大部分は先天性のものである。Perlmutter ら¹⁾によれば、腎臓は胎生 8 週目に成人の位置に到達しこの時期に胸腹膜管が閉鎖して横隔膜が形成されるが、この閉鎖が遅延して腎が上昇するか、あるいは閉鎖は正常に行われるが腎の上昇が早すぎるために胸部腎が起こるものとされている。そして、右側には肝臓があり、また胸腹膜管の閉鎖が右側の方が左側より早く行われるため胸部腎は左側に多く起こるとされている。後天性の成因の主なものには外傷があるが明かな因果関係を認めた報告はない。

本邦ではわれわれが調べた限り自験例を含め75例の報告²⁻⁶⁾がありこれらをまとめた。年齢は0歳から80歳以上まで分布し10歳以下と、71歳から80歳までが若干多いがその他の各年齢層にはほぼ均等に分布している (Fig. 5)。性別は男性39例、女性34例、不明2例と今まで男性が女性より約3倍多い¹⁾とされてきたがほぼ同数である。発見動機としては、報告のある65例

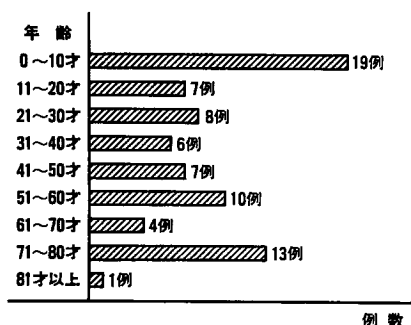


Fig. 5. Age distribution of thoracic kidney in Japan

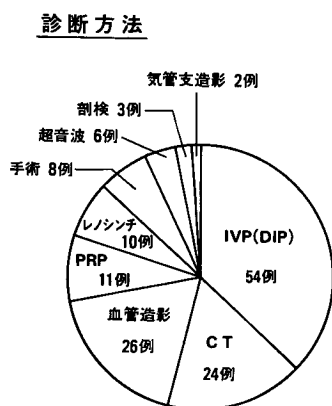


Fig. 6. Method for diagnosis of thoracic kidney

中、健診および他の原因により撮影されたX線の胸部異常陰影によるものが最も多く49例、直接の原因であるかどうか不明であるが高血圧・蛋白尿により発見されたものが3例、腰背部痛を訴えたものが7例とその他8例である。部位は右側30例、左側41例、両側1例、不明3例と左側に多い傾向がみられる。診断方法は最近では排泄性尿路造影またはCTを容易に行うことができ、これらの方法にて診断された症例が最も多くそれぞれ54例、24例である。検診や他の原因により胸部X線写真を撮影する機会が増し、胸部単純写真または腹部単純写真の詳細な読影にて本症を疑い、CTないし排泄性尿路造影を容易に行うことができるため胸部腎の発見率も増加するものと思われる (Fig. 6)。合併症あるいは合併奇形は、横隔膜の弛緩・ヘルニア・欠損と横隔膜の奇形が最も多くこれら3つで19例である。これらを臨床的に鑑別することは難しい。胸部へ上昇する腎の多くは Bochdalek 孔より横隔膜に囲まれたまま上昇するので普通気胸を起こすことはない。また腎が高位にあるため尿流の停滞を起こすこ

合併症 (35例)

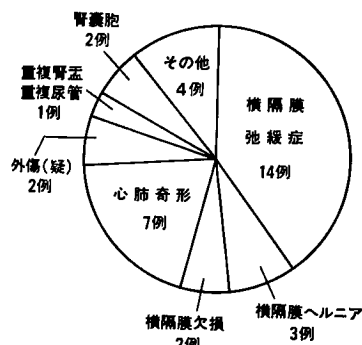


Fig. 7. Complication and anomaly in thoracic kidney (35 cases)

とはなく水腎症の発生は認められていない。心臓奇形では、患側肺の低形成・心の患側への偏位などが認められた。腎嚢胞の合併例は本症例で2例目にあたる。1例目⁶⁾は急性心筋梗塞で緊急入院し胸部X線にて偶然発見された左側の胸部腎であった (Fig. 7)。副腎は腎とともに上昇するものと正常の位置にとどまるものとあるとされるが、いままで副腎についての報告はされていない。われわれの症例では腎とともに上昇していた。

本症は自覚症状を欠くものが多く、腎機能に異常を認めないものが多いため積極的に検査、治療を行わず経過観察される症例が多い。われわれの症例も健診で偶然発見されたものであり、自覚症状なく血液、尿検査所見に異常を認めず積極的な検査、治療を行わず経過観察をしている。

結 語

健診にて偶然発見され排泄性尿路造影、CTにて診断された腎嚢胞を伴った右胸部腎を経験したので報告し、本邦における胸部腎の報告例を集計した。健診で発見されることが多く胸部異常陰影の鑑別診断の一つとして考慮すべきと思われた。

なお、本論文の要旨は第464回日本泌尿器科学会東京地方会にて発表した。

文 献

- 1) Perlmuter AD, Retik AB and Bauer SB : Edited by Walsh PC, Gittes RF, Perlmuter AD and Stamey TA : Anomalies of ascent. In: Campbell's Urology, 5th. ed. pp. 1674-

1680, Saunders Co., Philadelphia, 1986

- 2) 深井祐治, 千場 博, 金子輝夫: 左胸部腎の一例. 日胸疾会誌 **23**: 256, 1985
- 3) 山上敬司, 桜井 健, 佐久間文明, 荻原照久, 細川芳文, 山口道也, 上田真太郎, 堀江孝司, 岡安大仁: 胸部腎の一例. 日胸疾会誌 **24**: 820, 1986
- 4) 金 奂見, 田代隆良, 後藤陽一郎, 永井寛之, 黒田芳信, 後藤 純, 明石光伸, 那須 勝, 糸賀敬, 中島彰久, 前田宏文, 芦沢 昭: 脾弯曲部結腸の上昇を伴った左胸部腎の一症例. 日胸 **44**: 755-762, 1985
- 5) 林田正文, 浅井貞宏, 渡辺 尚, 坂本裕二, 原耕平, 川野洋治, 木下善之: 胸部腎の一例. 日胸 **45**: 971-975, 1986
- 6) 広瀬 健, 中元隆明, 塚田錦治, 青木 章, 津吹典男, 増山哲茂, 大野 完, 吉村正治: 急性心筋梗塞で入院し, 多発性のう胞を伴う胸部腎が発見された一症例. 日胸疾会誌 **22**: 1171, 1984

(Received on January 10, 1990)
(Accepted on June 26, 1990)